



2009年11月12日発行（通算第55号）

発行 大坪庄吾方 呑川の会

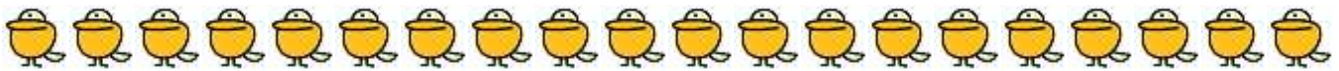
連絡先 〒146-0085 大田区久が原 4-19-24

の み が わ

呑川の会 e-mail nomigawa@r00.itscom.net

呑川の会 HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



「呑川」に「アユ」がいた！

（高橋 光夫 記）

アリゲーターガー捕獲作戦で見えたもの

（1）TV 朝日「素敵な宇宙船・地球号」アリゲーターガー捕獲作戦

「呑川」に「アリゲーターガー」がいる・・・その名前は知らなくても、呑川沿いを散歩する人には大きな怪魚を目にした人は多数に上っていた。

私が最初に見たのは2年前の2007年だったが、周辺地域の方によると6年くらい前にはいたらしい。



（2007年夏に、「上堰橋」付近で撮影）

今年（2009年）8月、TV 朝日スタッフから連絡が入りました。

それはアリゲーターガーが「外来魚」であること、それが在来の生き物に多大な影響を与えること、呑川の自然環境の改善にとっても放置できない可能性があること等を熱心に訴えられ、その駆除に「呑川の会」の協力が依頼され、捕獲のために川崎漁協などの協力も得るとのことでした。捕獲した場合の引き取り手も確保されていました。

そして2009年8/19・8/23・8/29と3回の捕獲作戦が行われ、「呑川の会」も毎回10名前後の方が早朝から夕方まで発見活動に参加しましたが、あいにくガーパイクは姿を現しませんでした。(みんな本当に疲れ切るまでがんばったのですが・・・)

その後TV朝日の放映予定日ぎりぎりまで努力は続けられましたが、捕獲できなかったにせよ9/27には「素敵な宇宙船・地球号(最終回)」で報道されました。



((↑ 刺し網を掛けて魚類調査・養源寺橋付近)

この捕獲作戦には琵琶湖博物館の中井博士も駆けつけ、ガーパイクが複数目撃されていることから、呑川で繁殖していないか心配されていました。

捕獲できなかったことは残念ですが、川崎漁協の山崎さんはとても熱心な方で、網を掛けての調査では、呑川の主とも言えるオオナマズが見つかったり、収穫の多いイベントとなりました。

((↓ 呑川の主? 大ナマズ)



そして何よりもの収穫は、山崎さんが「アユ」が呑川に來ていることを教えてくださり、しかもこの取材現場付近で「アユ」を指し示して下さったことです。ただボラと混泳していましたし、ちょうど日陰で見にくく、写真としてはうまく撮影できませんでした。そこで9月に入って、なんとかハッキリとした「アユ」の魚影をとらえようと、ようやく撮影出来たのが、この写真です(最下

段に掲載)。(上堰橋付近で発見)10月に入ると「落ち鮎」のシーズンに入り、遡上は終わると思うので、その前に見つけ撮影したいと必死でしたので、アユの泳ぐ姿を目の当たりにして感動でした。

同時に、このアユたちが呑川に居着いてくれるよう、上流まで遡上してどこでも見られるよう、さらには呑川で繁殖してくれるよう願わずにはられませんでした。

そういう意味でも、外来魚ガーパイクはいて欲しくありません。

今回のガーパイク捕獲作戦は、いろいろな意味で大きなものを我々に与えてくれました。



上堰橋付近で撮影のアユ

今年の呑川工事

(福井 甫 記)

本年度の東京都建設局の呑川関連予算の資料を呑川の会で入手しましたので、第二建設事務所で聴取した内容とともにご紹介いたします。

全体を中小河川整備事業、高潮防御施設事業、河川環境整備事業と分け、今年度の予算総額は7億円弱。その概要は次の通りです。

・中小河川整備事業

呑川河床整備工事(その7)

20年度のその5工事の端部から仲之橋間の約50m。(右の写真の護岸の鋼矢板部分)

呑川河床整備工事(その8)

芹ヶ谷橋から本村橋間の約75m。

河床整備計画はこれまでと基本的に同じですが(2008年7月10日発行の会ニュース「呑川」第50号参照)今回はその7工事で川幅全幅に約20m間、約50cmの深みが新設さ



れます。

その深み区間に以前からのタテ 7.5m、ヨコ 4.0m の開口部が設置されるので、開口部は合計 1.0m 以上の深みを有することになります。新設される深み、およびその開口部がどのような影響を生き物に与えるのか。鯉もそこまで遡上するか注視したいと思います。（現時点ではその 5 工事区間の開口部で鯉をみたことはありません。もし誰も見てないとすると以前は八幡橋まで遡上していましたから、現段階では工事以前より生息範囲が狭まったことになります）

右は 第二建設事務所作成
河床整備計画イメージ図



・高潮防御施設事業

呑川防潮堤耐震補強工事

護岸の地盤が液状化の恐れのある呑川新橋から夫婦橋間の地盤改良工事と護岸補強工事である。本年度はその 1 工事として夫婦橋と天神橋間約 280m を施工。

これは既設の防潮堤の下部を地盤改良するので河川の断面形状が変わるものではないので、基本的に川の流れには影響はないといえる。

・河川環境整備事業

呑川緑化工事（その 2）

現在の呑川雪谷地区の境橋と東橋間に引続き、東橋と鷹之橋間の緑化（蔦と桜）を左岸を中心に進めるもので右岸はできる範囲で実施。

秋の呑川沿岸（工大橋～河口）の樹木

（可児 昭雄 記）

今年は一度も台風が上陸せず夏が過ぎ秋を向え、ちらほら木々の葉も散り始め、行楽地より紅葉の話題が聞こえてくる季節となった。また実りのシーズンでもある。

呑川沿岸でも紅葉する樹林が 15 種あるが、それと同時に現在「里山」の復活ということで、ドングリの木も植えられている。ドングリには色々な形がある。日本では 17 種あり、世界では 600 種あるらしい。

[日本の 17 種] ()内は呑川沿いで見られる種類

ぶな科 コナラ属 : (コナラ)、ミズナラ、(クヌギ)、アベマキ、ナラガシワ、カシワ、(ウバメガシ)、(アラカシ)、アカガシ、(シラカシ)、ウラジロガシ、オキナウウラジロガシ、ツクバネガシ、ハナガガシ、イチイガシ

マテバシイ属 : (マテバシイ)、シリブカガシ



大平橋右岸・マテバシイ並木

呑川沿いには、およそ6種100本以上（内、半数がマテバシイ）が存在する。ところで、ドングリは食べられるのか。その中でイチイガシは、そのまま炒って食べられるが、多くのドングリは渋味が強いので、水にさらしてデンプンを取り、粉にして団子を作り、昔から食べられているらしい。

参考文献：

- 「雑木林は不思議な世界」 盛口 満 著（山と溪谷社）
- 「なぜでしょう科学質問箱（植物篇）」 折井 英治 著（法政大学出版局）

横浜・和泉川ウォーキング

水辺と緑豊かな「多自然川づくり」

（折戸 清 記）

10月3日（土）は時々晴れたり、出発時は雨が降ったり不安定な天気でしたが、白石さんの案内で下記のコースを10名が参加してウォーキングしました。

相鉄線三ツ境駅 厚木街道二ツ橋 二ツ橋の水辺 東山の水辺 関が原の水辺
 寺ノ脇の水辺 宮沢遊水地 東海道新幹線 相鉄いずみ野線 和泉遊水地
 地蔵原の水辺 相鉄いずみ野線いずみ中央駅

厚木街道の右側は3面コンクリートの味気ない川だが、左側は車の騒音からも解放される二ツ橋の水辺から始まる和泉川は、川沿いの土手から水辺に近づくことができ、子供がザリガニや小魚を捕っていた。東山の水辺の左岸には東山ふれあい樹林があり、ちょっとした森林浴が楽しめる。関が原の水辺は川原が広がっており、一休みするのに都合が良い。寺ノ脇の水辺の左岸一帯には、こんもりとした瀬谷貉窪公園の樹林が広がっている。

これらの水辺には、やすらぎ橋・東山ふれあい橋・赤関おとなり橋など木材のぬくもりを感じさせる橋がある。



(東山の水辺)



(地蔵原の水辺)

やがて左岸にある広々とした宮沢遊水地に到着する。他でよく見掛ける殺風景な遊水地と異なり、釣りを楽しめる池があったりして弁当を広げるのに都合が良い。ここには石造りのめがね橋もあり気に入った。東海道新幹線と相鉄いずみ野線の下を通り、しばらく歩くと左岸に和泉遊水地がある。ここは専ら運動場として利用されている。最近都市河川の鉄砲水による被害が発生しているためか、それに注意する看板をあちこちで目にした。

最後にいずみ中央駅前にある地蔵原の水辺に到着する。この水辺は市民に対し、川にもっと親しみを持ってもらおうと、一定の敷地内に色々な親水施設をぎっしり詰めたような感じで、環境社会学の勉強には好都合かもしれない。

今回の散策も期待に違わず好感が持てた。川そのものも良かったが、都心近い割りには樹林や田畑が意外に良く保存されており、昔よく見られた自然豊かな田舎へ行ったような和やかな気分になれた。なお川原の草が伸び放題になっていたり、工事中で川沿いに歩けない箇所が一部にあった。

都市河川と鉄砲水災害

(折戸 清 記)

呑川の会では10月に横浜市にある和泉川を散策したが、この川は3面コンクリートの川ではなく、川沿いの土手から水辺に近づくことができる親水機能が優れた川であった。ただ最近都市河川の鉄砲水による災害が発生したためか、それに注意する立て札をあちこちで目にしたのが少し気になった。それは昨年7月に親水機能が優れた川として知られている神戸市の都賀(トガ)川の河川敷に居た57名が鉄砲水に遭遇し、うち5名が死亡し、また同年同月には呑川でも川の工事をしてた3名が鉄砲水に遭遇し、うち1名が死亡した痛ましい災害を思い出したからである。先日図書館で近年発生した鉄砲水災害事例に関する資料を見付けたので、そのうち呑川と都賀川の事例について紹介する。

呑川と都賀川の鉄砲水は、源流部の集中豪雨が急激に川に流出し増水を引き起こしたものである。呑川では水難事故発生地点の約1km下流にある池上水位観測所で、10:30~10:40の10分間に0.87m、10:30~11:00の30分間に1.67mの急激な水位上昇が記録されている。流出解析によると洪水到達時間内の平均降雨強度は10.2mm/h、流出係数は密集市街地であるため、0.90となっている。すなわち本事例は豪雨により発生した鉄砲水災害

として捉えられ、流出率の高い都市域で発生する都市型洪水として扱われる現象であるとしている。

都賀川は神戸市を貫流する清流として知られており、親水整備により水遊びや散策の場として地域に親しまれている。本事例は河川モニタリングカメラにより鉄砲水の増水状況が報道された珍しい事例である。それによると 14:40～14:42 の 2 分間に激しい水位上昇が始まったことが確認される。本事例も極めて短時間の局所的な集中豪雨により、流出率の高い市街地からの流出が鉄砲水を引き起こした可能性が高いと解析されている。

横浜市の和泉川は流域に森林や田畑が多く、また遊水池も多数設置されているので、降った雨の川への急速な流出は少ないと思われる。川の安全な親水性を保つには、流域の保水と遊水池の機能を維持向上し、川への急速な流出を少なくすることが重要であると思う。

呑川は中原街道の地下に方水路はあるが、流域には森林や田畑はほとんどなく、またこれと言った遊水池もないので、どうしても川への急速な流出は多くなってしまふ。なお豊島区で下水道工事中の作業員が流された痛ましい災害も発生したが、これも性格上は都市河川の鉄砲水災害と同類だと思ふ。

参考文献 H21 年 2 月 土木研究所発行「近年発生した鉄砲水災害事例」

会報「のみがわ」掲示板新規に二箇所設置！

広報担当 工藤 英明

予てから、呑川沿道の小学校や協力企業に、会報「のみがわ」の掲示板を設置し、会の広報や呑川に関するいろいろな事柄をお知らせしたいと念願してまいりましたが、このたび、8月に雪谷小学校に続いて、10月には蒲田小学校に新規に設置することが出来ました。お近くにお住まいの呑川の会会員さまには勿論、沿道を散歩される多くの方々が、これらの掲示板をご覧になり、より一層呑川に愛着を持ち、また、呑川の会への加入希望をお持ちになることを期待しております。会員の皆様には、会報「のみがわ」発行の都度、郵送させて頂いておりますが、モノクロのため、折角の綺麗なカラー写真をご覧頂くことが出来ません。これら当会掲示板で、ほんものの会報をカラーでご覧頂ければ幸いです。現在、四半期ごとに4回発行している会報ですが、その他に呑川の「かわせみ（翡翠）」など鳥の写真や、最近発見された「あゆ（鮎）」などの魚の写真も掲示できればと考えております。



雪谷小学校の掲示板



蒲田小学校の掲示板

今後とも呑川散歩の際に、何か新発見や面白いことがありましたら、是非会報「のみがわ」に

投稿お願いいたします。

「呑川の会」定例会のお知らせ

「呑川の会」の定例会を下記の通り開催致しますので、多数の会員の皆様の出席をお願い致します。

なお、恒例により定例会終了後「忘年懇親会」を開催いたしますので、こちらにもぜひ出席ください。

記

1. 日 時： 12月12日(土)
定例会 14時～17時
懇親会 17時30分～19時
2. 場 所： 大田区立蒲田小学校（蒲田駅東口徒歩5分・呑川御成橋すぐ）
家庭課室
3. 議 案：
 - (1) 報告事項
大田区との懇談会（11月12日）
その他
 - (2) 話題提起
50ミリ対応について。
和泉川ウォークをして、他の河川との比較。
最近の呑川 生き物（アリゲーターガー ほか）
今後の呑川の活動について。
4. その他
今後の主なスケジュール
11月24日（火）10～12時 呑川ネット定例会
2月 6日（土）14～17時 呑川の会 定例会
2月21日（日）エコフェスタワンダーランド 山王小学校
4月 3日（土）残堀川・玉川上水・お花見ウォーキング
以上

< 編集後記 >

6月下旬の呑川シンポジウムで「呑川に鮎を取り戻そう」と提言したら、この夏に浄国橋付近の浅瀬で「鮎」を発見できたことは画期的な素晴らしいことでした。

これはテレビ朝日の「素敵な宇宙船地球号」でアリゲーターガーを捕獲しようとした時に、川崎漁協の山崎さんにアユの群れが石の苔を突っついているのを教えて頂いたためです。これから、もっと多くの皆さんに興味を持って見てもらえるよう、川の生物表示も考慮したいものです。

今回から新しい編集者が加わり、2人で編集しました。（白石 琇朗・菱沼 公平）